

2019年9月25日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

特別調査

「Windows7 サポート期間終了にともなう影響」について

☆高い認知度・・・・・・・・・・サポート期間「知っていた」65.2%
☆今も使う古いOS・・・・・・・・「Windows7」27.6% 「WindowsXP」6.6%
☆使い勝手>脆弱性・・・・・・・・「Windows7」このまま使う46.7%

●高い認知度・・・・・・・・・・サポート期間「知っていた」65.2%

2020年1月14日に「Windows7」のサポート期間が終了しますが、この期間について「知っていた」が65.2%、「知らなかった」が34.8%となり、サポート期間終了について7割近くの企業が認識していました。

また、パソコンを使っている企業は87.9%、その内、使用台数が5台以下は64.8%となり、中小企業においても、パソコンは大量データ処理や時間短縮、コスト削減に向けた必須アイテムとなっています。

●今も使う古いOS・・・・・・・・「Windows7」27.6% 「WindowsXP」6.6%

パソコンを使う企業が使用するOSは、「Windows10」が63.7%、「Windows7」が27.6%、「Windows8」が27.3%、「WindowsXP」が6.6%、「WindowsVista」が2.9%となりました。

5年前の「WindowsXP」サポート期間終了直前の調査では、46.0% (537社) が、「WindowsXP」を使っており、今回は当時より影響は小さいものの3割の企業が「Windows7」を使っています。

また、この調査では、すでにサポート期間が終了している「WindowsXP」や「WindowsVista」が未だ使われていることがわかりました。

●使い勝手>脆弱性・・・・・・・・「Windows7」このまま使う46.7%

「Windows7」を使用する企業では、46.7%の企業が「当分（Windows7を）このまま使う」と回答しており、その理由は「Windows7のままで不自由しない」が53.8%となりました。

今回の調査結果において、使用するOSで「Windows10」が高いのは、パソコンの老朽化や故障で買い替えた時に最新のOSになるケースや、受注先が自社より上位のOSを使用しておりOSを変更したケースが大半ではないかと思われます。

パソコンを使う企業では、「ウイルス対策ソフトの導入」は79.1%の企業が実施するなどセキュリティに対する意識は高いものの、OSの脆弱性に対する意識は未だ低いと思われます。

調査時点：2019年9月上旬
対象企業：当金庫お取引先1,748社（大阪府内、尼崎市）
回答企業数：1,474社（回答率84.32%）
調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>